

Share!カードの活用による環境みらい学習システムの構築

- ◆提案団体：特定非営利活動法人里山を考える会
- ◆担当部署：環境局環境学習課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成26年度



提案団体の概要

一般市民に対して「里山的暮らしのデザイン」をテーマに社会システムの発展、環境教育及び人材育成に関する事業を行い、持続可能な社会及び生活環境作りに寄与することを目的とする。

平成21年～現在「環境ミュージアム」指定管理者、平成24年～現在「ココスマツアー」実施、平成24年～現在「東田サステイナブル国際会議」開催、平成24年～現在「Share!東田まつり」開催

事業の目的と概要

市民が楽しくかつ有意義に環境活動に取組み、更にライフスタイルにおける行動変革を起こすことができるよう、北九州市が進めている「環境みらい学習システム」の推進支援として、ポイントカード（Share!カード）を活用した事業の展開を図る。また、個人の段階的な学びを分析・評価することによって、学びを深め行動に導く学習プログラムの開発の提案を行なうことを目的とする。

- ✓ 学びを深める学習プログラム
 - 北九州市環境ミュージアムを拠点とし、同施設や八幡東区東田地区及び、周辺地区の学習施設と連携し「学び」を深める環境学習プログラムの提案
- ✓ ポイントカード（Share!カード）を活用した学習評価システム
 - ポイントの評価基準となる環境評価指標の策定、調査・分析の実施
 - 「学習診断カルテ」の作成
 - 市民の環境配慮行動の持続性を確保するための「インセンティブ」の付与
 - 企業の広告協賛による運営資金の確保
- ✓ 情報発信
 - PRツール、ホームページやメールマガジン等を用いた市民への情報発信、広報

役割分担

- 行政の役割：市の施策に基づく環境学習プログラムへの提案、環境学習施設へ協力依頼、広報
- 団体の役割：同システムの企画運営

事業費とその主な内容

■事業費 1,263,801円（うち補助金額 1,000,000円）

学習診断ソフトウェア開発費、HP作成費、消耗品費、通信・運搬費、印刷・製本費、旅費・交通費

協働による成果

定期的に会議を開く事により事業の方向性について常に共通認識を持ち取り組む事ができた。またそれぞれの強みを活かした役割分担をし、事業を実施した。

■ エコライフステージでのラリー・広報活動

2014年10月11日・12日で実施されたエコライフステージ2014にてShare!ポイントラリーを実施した。同イベントは環境学習課が担当する環境イベントであり、事前出展者説明会では、時間を頂いてラリーについての説明・参加ブース募集を行った。その結果募集7枠以上の応募があり、積極的な参加を頂いた。2日間でおおよそ300名の方にカードを配り、8ブースのうち、5ブース（10ポイント）を回った方にはエコグッズとの交換を実施した。

↓エコライフステージでの様子



■ 他施設への連携強化

東田地区内にある3館への協力依頼の際は、環境学習課にも同席頂いたことにより、他施設との連携がスムーズに行えた。

■ 市役所での説明会実施

北九州市役所で職員の方を対象にした説明会を実施した。環境学習課には、事前に局内に広報をして頂き、昼休み中Share事業の説明やwebsiteの紹介、ポイント付与等を行わせて頂いた。職員の目から見たこの事業へのご意見等も頂き、非常に参考になった。

担当課の声（反省点・苦労した点）

■ 事業計画の進捗管理及び変更

システム開発に予定外の時間を要することになり、進捗の遅れを修正することができなかった。当初計画の見込みが実際とは大きく異なったことについては、システム開発者・提案団体・担当課が十分に情報共有する中で事前に計画策定し、常に全体で進捗管理をする必要があった。

■ 事業内容の概要

事業の持つ意義は“未来都市 北九州市”を目指す本市にとって非常に有益で効果的なものであるが、これまでにないシステムであるため、こちらからの概要説明について、初めて聞く市民からイメージできないとの意見があった。市民に分かりやすく説明することで、さらに事業の広がりにつながることから、説明の工夫により市民に身近なものとして活用していただけるシステムにする必要がある。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

■ 事業開始・システム開始の遅れ

システム開発や事業開始前の調整に時間を要し、事業開始から1ヶ月後のシステム導入となった。思うように参加人数が伸びなかった理由の一つになったと考える。

■ 参加人数の確保

上記のように開始時期の遅れも原因の一つではあるが、参加者が参加しやすいシステム（ソフト面・ハード面共に）としては不十分な点も見受けられた。

■ 継続的な運営

これも事業開始の遅延に起因しているが、昨年度予定していた協賛企業へ広報等については、あまり積極的に取り組むことができなかった。

反省点を活かし、平成27年度は7月には本格的に事業を開始すると同時に、平成26年度導入したシステムを活かしつつ、事業の拡大・参加者の増加と参加者が参加しやすい仕組みづくりを目指し、事業展開をはかる。また平成28年度以降の事業継続のための協賛金・協力企業集めにも積極的に取り組みたいと考えている。

ふれあい花壇菜園を拠点とした多世代交流で 元気いきいきまちづくり事業

- ◆提案団体：NPO法人障害者支援協会
- ◆担当部署：小倉北区コミュニティ支援課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成26年度



提案団体の概要

障害者支援協会は、西南女学院大学福祉科の卒業生が中心となって障害児者の自立支援を目的とした団体です。

障害者総合支援法に基づいた就労支援事業、同じく支援法に基づく相談支援事業、さらに児童福祉法に基づいた障害児通所支援事業を実施しています。

事業の目的と概要

当法人が中心となって活動している「ふれあい花壇菜園（まち森プロジェクト）」の整備を通して、高齢者・子ども・障害児者等の多世代が交流を行うことによって、社会的連携感の向上を目的として事業を実施しました。さらに、多世代で知恵を出し合い、様々な経験を得ることによって元気でいきいきとしたまちづくりのモデルとなることを目指しました。

■ふれあい花壇菜園の運営管理

地域の高齢者の指導で障害児者、子ども達がさつまいもの苗植え等を行い、地域住民、高校生や大学生のボランティアの日程調整及び花壇菜園での安全管理を行った。

また、交流スペースとして花壇菜園にテラスを設置し、真砂土を4t追加して畝を増設した。

■収穫祭（交流会）

市民センターのそよかぜ祭りにて、収穫したさつまいもで芋かりんとうを作り、150食を市民へプレゼントした。また、花壇菜園の活動のポスターを作ったり、活動の様子を映像で見て頂き、地域の住民の方々に対して周知を図った。

■花壇菜園教室

障害児者を対象に地域の高齢者から、さつまいもの苗植え・芋掘りや、様々な野菜の育て方を教えて頂いた。また、大根を収穫し地域のどんど焼きにおろし大根を提供した。

■年間を通して花壇菜園の作業活動にのべ700人以上の市民が参加した。

役割分担

■行政の主な役割

- (1) 人と人をつなぐコーディネーターとして地域の人材を紹介
- (2) 事業活動の広報（到津だより）

■団体の主な役割

- (1) ふれあい花壇菜園管理運営
 - ・年間事業計画作成
 - ・地域の高齢者の方々から花壇菜園の指導（教室）を受けながら参加者と活動開始（ふれあい花壇菜園での土作り苗植え収穫販売整備）
 - ・交流スペース設置
 - ・ふれあい花壇菜園で収穫した野菜を使い、収穫祭を行った

(2) 事業対象者のマネジメント

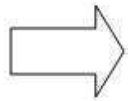
事業費とその主な内容

■事業費 545,385円 (うち補助金額 430,000円)

人件費(作業費代)、報酬費(講師謝礼代)、旅費交通費(ガソリン代)、備品費(テラス・バッテリー代)、消耗品(苗土代等)

協働による成果

- 高齢者が持つ園芸技術や知恵を活用し、子どもや障害児者に技術の指導を行うことによって、高齢者自身の社会での役割を得ることができた。
- 市内の単位制高校の生徒が毎週ボランティアとして草刈りや苗植を行った。そこで地域の高齢者・障害児者等と一緒に作業を行うことで社会経験を増やし、対人関係を学習できた。
- 高齢者の豊かな技術や知識が障害者の就労支援にも役立ち、高齢者・高校生との交流が対人関係を豊かにした。
- 障害児を含む子どもたちが、花壇菜園で地域の方々と一緒に花や野菜を育てることは、植物の命を学ぶことであり、子どもたちの健やかな成長に寄与できた。
- 「ふれあい花壇菜園」が多世代交流の場となることで、社会連携感を向上させ「地域の力」や「地域のつながり」を深めることができた。



担当課の声(反省点・苦勞した点)

- 地域の高齢者を含む住民の方々に、障害児者との関わりを理解していただくために障害について丁寧に説明を行った。特に菜園活動に直接指導を行う高齢者の方々には、説明の回数を増やした。地域の行事(文化祭・どんど焼き等)に、収穫した野菜を提供して頂くことで、活動を地域と繋げるきっかけ作りができた。
- 文化祭の広告には掲載したが、菜園の活動について年間を通して校区だよりに掲載(春夏秋冬)すればもっと広報することができたのではないかと思う。

提案団体の声(反省点・苦勞した点)

- 障害児者の障害の特性等を地域の高齢者の方々に理解して頂くため、毎回の活動時に個々の障害特性について説明し理解して頂いた。団体の活動概要についても同様に説明し理解を得るようにした。
 - 地域の行事の時に収穫した野菜を提供して花壇菜園の活動を地域の方々に知って頂くようにした。
 - 収穫祭の時にアンケートを配布し活動について市民の声を伺う計画だったが、さつまいもかりんとうの無料配布と同時に行ったためアンケートをほとんど配布回収できなかった。そのため、アンケートを活用した事業活動の冊子を作ることができなかった。
-

環境未来都市「北九州市」防災啓発フェスタ 2014

- ◆提案団体：特定非営利活動法人 北九州COSMOS クラブ
(北九州市耐震推進協議会)
- ◆担当部署：建築都市局建築指導課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成26年度



提案団体の概要

「生涯学習の精神で、楽しく学び、創造し、次世代の人間育成を推進する」を理念に掲げ、パソコンを利用したCADやその他のスキルはもとより、情報交換を通じ、まちづくり活動や、建築・福祉団体等との連携・協働を推進し、地域貢献活動への積極的な参加・支援により、まちづくりの推進と地域文化の向上及び福祉の充実に寄与したいと考える団体です。

事業の目的と概要

地震に対する危機意識の低い北九州市民へ「建築物耐震改修工事費等補助事業」について周知を図り、建築物耐震化率の向上を促進する。

■住まいの耐震化セミナー（平成26年9月28日開催）

JAM広場にてカフェ形式による防災啓発セミナー開催、市民の災害に強いまちづくりへの意識向上を図り、防災モデル都市の基盤づくりへつなげる。

■よくわかる住まいの耐震化セミナー in 西部ガスフェア

平成26年10月17・18・19日西日本総合展示場にて開催の西部ガスフェアにて防災セミナー開催。地震体験車両や寸劇「耐震マン」など、市民の防災意識の向上を図りました。

■北九州防災カフェ開催

平成27年3月15日リバーウォーク北九州にてカフェ形式の防災セミナー開催。北九州市内の住宅耐震化工事の実績報告や防災〇×クイズなどを行い、市民の防災意識の向上を図りました。

役割分担

■行政の主な役割

耐震補助制度などの市の取組みに関する資料の提供、防災関連の他部署との調整、イベント広報、セミナーの講師やスタッフ

■団体の主な役割

耐震化セミナーの講師、「耐震マン」キャラクターの開発、防災カフェの運営、防災ハンドブック作成配布など、市民目線で具体的な内容の啓発活動

事業費とその主な内容

■事業費 2,754,000円（うち補助金額 1,000,000円）

会場費（施設使用料、設営・看板他）、報償費（謝礼、交通費他）、印刷費（ポスター、チラシ）、音響関係・保険費（音響費、レンタル料、保険料他）

協働による成果

●環境未来都市「北九州市」防災啓発フェスタ 2014

- 日時：平成26年9月28日（日）12：00～ 場所：JR小倉駅 JAM広場
参加者 構成員：18名 ボランティア：5名 一般参加：1,000名超
活動内容 ・オープニングトーク、イベント紹介 MC（山本華世）
・住まいの耐震化セミナー&耐震マンショー 1部、2部
・防災クッキング 講師（益元泰江）
・防災〇×クイズ MC+北九州市耐震推進協議会
・東北震災支援ジャズライブ 演奏（田部俊彦）
・震災パネル展 ・地元幼稚園 児童絵画展



●西部ガス「くらしが、スマート！2014 in 北九州」出展

- 日時：平成26年10月17日（金）、18日（土）、19日（日） 場所：西日本総合展示場
参加者 構成員：11名 一般参加：延10,000名超
活動内容 ・地震体験車両の乗車体験会
・東日本大震災パネル展示、DVD耐震化映像放映
・耐震診断受付、住宅耐震リフォーム相談
・住まいの耐震化セミナー「耐震マンショー」
・「耐震マン」ふれあいパレード

●北九州防災カフェ

- 日時：平成27年3月15日（日）11：30～ 場所：「ヒナタ北九州」リバーウォーク北九州
参加者 構成員：12名 一般参加：33名
活動内容 ・講演「北九州市の耐震化事情」建築指導課 早瀬係長
・講演「住宅耐震よもやま話」耐震推進協議会
・講演「北九州の耐震化工事事例報告」耐震推進協議会
・防災〇×クイズ・住宅耐震リフォーム相談

担当課の声（反省点・苦勞した点）

■北九州COSMOSクラブには、耐震行政に以前より協力頂いており、目的の共有が確立されているため、とてもよい事業ができたと思います。今年度は、「耐震マン」という新しいキャラクターづくりに取り組み、さらに市民に親しみやすい工夫がされました。普及啓発というものは、短期間で成果が出るものではないので、今後も息の長い活動を共にしていきたいと思っています。

提案団体の声（反省点・苦勞した点）

■二年目の開催ということで、さらに進化した企画を準備しましたが各所とのスケジュール調整がつかず、一部企画が実施できなかったことが残念です。ただ、キャラクターの開発をはじめ、全体の活動は一年目より明らかに活発で、協働事業の目的である住まいの耐震化への市民の関心が高まり、工事实績も伴うようになってきました。このことを踏まえて、これからも活動を継続させていくことが大切であると考えます。

ウォーキング普及による超寿命健康未来都市の推進

- ◆提案団体：NPO 法人北九州ウォーキング協会
- ◆担当部署：保健福祉局 健康推進課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成26年度



提案団体の概要

NPO法人北九州ウォーキング協会は50年の歴史があり、平成24年7月からNPO法人となり、「生活習慣病の予防」「健康寿命の延伸」「子供の歩育推進」をウォーキング普及でお手伝いする活動を行っています。

事業の目的と概要

健やかで心豊かに生活できる活力ある高齢化社会を目指し、ウォーキング普及活動を推進しているが、ウォーキングを必要としている方への有効な深耕手段がない。

このため、企業に在籍中から、自分の健康は自分で守る手段としてウォーキングを取り入れていただくため、ウォーキング普及推進の切り口として、企業の健康推進担当者参加の初心者ウォーキング教室を開催する事業を実施した。

役割分担

■行政の主な役割

市のネットワークを活用した、市民センター等の地域への周知・広報や、大会会場の進行管理。

市全体による開催で、超高齢化健康未来都市推進が期待できる。

■団体の主な役割

これまで培ったウォーキングに関するノウハウを活かしたコース設定や、大会の企画運営のほか、職域（企業等）への効果的な普及・PRを実施。

事業費とその主な内容

■事業費 1,264,357円（うち補助金額 1,000,000円）

報償費（講師謝礼）、旅費交通費（ガソリン代、交通費）、委託費（印刷、受付、チラシ、ポスター作成費）、使用料（車両レンタル）、通信費（郵便、クロネコ）、消耗品費（文具費）

協働による成果

この事業を通じて、運動が不足しがちな働き盛りの世代のうちから、健康への意識の向上と体を自己管理する力を習得して頂くとともに、社外の活動にも関心を持って頂くことができた。また、定年後も地域社会への貢献ができる元気な高齢者の育成を図るため、企業訪問し、初心者ウォーキング教室への参加をお願いした。

■訪問企業の対応

初心者ウォーキング教室は、企業 10 社から 25 人に参加いただいた。

北九州無法松ツデーマーチウォーキング全国大会の企画としては初めての試みであったが、後日、参加のお礼に訪問したところ、本企画に対し参加して良かったとの賞賛の御言葉を頂いた。

また、北九州無法松ツデーマーチの企画に対しても会場に来られて、実感頂き、ウォーキング普及活動に対するご理解を頂いた。

■ウォーキングネットワークの構築

初心者ウォーキング教室への参加者のご意見を踏まえ、他の企業へも報告し、NPO 法人北九州ウォーキング協会が実施する年間 20 大会（北九州無法松ツデーマーチを含む）のウォーキングネットワークへの参加をお願いしたところ、40 企業の参加を頂いた。

H27.1 から毎月の例会を連絡し、企業の参加が増えてきている。



担当課の声（反省点・苦労した点）

■ツデーマーチ当日には例年以上のウォーキング参加者がいたこともあり、細かい対応が難しくなった箇所もありました。NPOと行政で当日の事前準備に関して、さらに綿密に調整を行う必要があると実感しました。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

■健康推進課とは同じ目的を共有しており、スムーズな運営が出来た。

また、北九州無法松ツデーマーチ運営に当たっては、会場全般の進行・運営をお手伝いいただき、多忙な大会運営業務の中で、初心者ウォーキング教室をスムーズに開催・運営できた。

一方、企業訪問については、訪問する企業と、健康推進課のスケジュール調整が難しかった。企業訪問は年間を通じて、対応可能にし、長いスパンでの成果を出せるようにしたい。

みんなのキタキュウシュウモブ

- ◆提案団体：NPO法人北九州スポーツクラブACE
- ◆担当部署：子ども家庭局青少年課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成26年度



提案団体の概要

当法人は、いつでも・どこでも・だれでも・そしていつまでも、スポーツに親しめる環境づくりを目指す『総合型地域スポーツクラブ事業』を核として、「健康維持」などをサポートする『ヘルスライフサポート事業』、スポーツ・健康づくりの「する」「みる」「支える」それぞれにアプローチした、『スポーツプロモーション事業』、性別、障がいの有無に関わらず楽しめる『アダプテッドスポーツ事業』の四つの事業を展開している。

豊かなスポーツライフの実現とスポーツ振興に寄与するとともに、行政、その他スポーツ関係団体、学校や地域と連携をはかり、スポーツを通じた青少年の健全育成、多世代交流等に取り組んでいる。

事業の目的と概要

本市において進む少子化は、子ども同士がふれあう機会を減少させ、子どもの健全育成の観点から深刻な影響を及ぼし、また、高齢化は、「地域全体で子どもを育てる」意識を低下させている。一方、日本経済新聞社産業地域研究所が実施した、「大学の地域貢献度」調査によると、本市において地域で活躍する大学生に注目が集まっている。

そこで、当法人は地域に根ざしたスポーツクラブとして、先述した社会課題の解決のため、「みんなのキタキュウシュウモブ」を実施する。「みんなのキタキュウシュウモブ」では、本事業オリジナル楽曲・振り付けを製作し、小中学生、大学生、地域住民が一緒となってダンスを練習し、大規模イベント内にて『フラッシュモブ』の形で披露する。

今回の「みんなのキタキュウシュウモブ」は、青少年の健全育成や地域社会の連帯感向上に繋がることはもとより、行政・地域・NPOが協働して市全体を盛り上げる全国に向けた革新的な取り組みであり、市のさらなる魅力を発信する事業になると確信している。

役割分担

■行政の主な役割

- ・当事業について、「次世代リーダー育成」の観点等から意見を述べた。
- ・全市的な活動展開のため、「成人式委員会」との連携を試みた際、その窓口を担った。
- ・ネットワークを活かし、小学校から大学生までの子どもたちの参加者を募集した。

■団体の主な役割

- ・事業が滞ることがないように、楽曲製作や、練習会のスケジュールリング等の運営を担った。
- ・スポーツ指導のノウハウを活かし、参加者に対し質の高いダンス指導を実施した。

事業費とその主な内容

■事業費 1,262,612円（うち補助金額 1,000,000円）

人件費（ダンス講師謝礼金）、委託費（楽曲、振り付け等）、旅費・交通費（駐車場代）、消耗品・材料費（文具代）、印刷製本費（リーフレット代）、通信運搬費（郵送料等）、役務費（保険料等）

協働による成果

- ・ダンス練習会等では、小中学生を中心とした参加者が「ダンス」をきっかけとして、「人よりうまくなりたいという思い」「みんなで一つのことに取り組む一体感・充実感」「集団での自分の役割認識」等を実感し、青少年の健全育成に繋がった。
- ・総合型地域スポーツクラブとして、活動拠点のみならず各地の地域団体と協働して練習会等を実施でき、地元大学生が地域に入っていくことで若い力が地域活動に参画するきっかけになった。
- ・練習会では、大学生が指導的役割を担いながら子どもたちと接することで、普段の生活ではできない経験ができ、青年リーダー層としての自覚が芽生えた。また、市民活動や社会貢献活動、NPO等への興味関心が広がり、今後も継続した取り組みへの期待が高まった。
- ・「みんなのキタキュウシュウモブ」を各イベントで披露した結果、そこで観覧していた市民から「うちの地域でもこの取り組みを実施してほしい」といった問い合わせを頂き、期待の高さを実感するとともに、事業の発展の方向性が見えた。
- ・北九州食でおもてなしフェスタ（北九州マラソン2015）でのフラッシュモブ披露では、RKBテレビ、朝日新聞等に取材を受けた。また、二回のイベントでは製作した映像をYoutubeにアップして、本市の協働事業としての取り組みを全世界にPRできた。



担当課の声（反省点・苦労した点）

- ・全市的な活動展開のため、「成人式実行委員会」との連携を試みたが、その際に役割分担としての意思疎通がうまく図れず実現しなかった。
- ・明確な役割分担とは至らなかったが打ち合わせを重ねたことで協働した運営ができた。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

- ・「成人式実行委員会」との連携を試みたが、実現しなかったため事業運営がNPOに偏る傾向にあった。
 - ・青年リーダーとして、練習会での指導者を担った大学生とのコミュニケーションやスケジュール調整に苦労した。しかし、年間通しての活動により事業後半は、大学生との連携もうまく機能するようになった。
-